



在シアトル日本国総領事館
領事 小杉 陵太

「常緑の州 (the Evergreen State)」 ワシントン州シアトルでの勤務

日本から最も近い 米国本土の都市、シアトル

東京から飛行機で約9時間、米国本土の主要都市の中で、日本に最も近い都市の一つが、ワシントン州シアトルです。昨年米国野球殿堂入りを果たされた鈴木イチロー氏が活躍されたチーム名「シアトル・マリナーズ」でこの地名をご存じの方も多いのではないのでしょうか。

産業としては、マイクロソフト社、アマゾン社のビッグ・テック2社がシアトル都市圏に本社を構え、グーグル社やメタ社もオフィスを設けるなど、情報通信分野が最も発達しています。また、ワシントン大学をはじめとしたトップレベルの研究機関も複数あり、産学を中心としたスタートアップ・エコシステムが形成されていることも大きな特徴です。シアトル都市圏には3,000ものスタートアップ企業があると言われており、その分野は情報通信のみならず、量子・核融合・生命科学など多岐にわたります。

さらに、世界を代表する航空機メーカー、ボーイング社もシアトルが発祥の地です。航空機部品の供給にあたっては日系企業も重要な役割を果たしており、787型機、通称「ドリームライナー」は、機体構造の約35%を日系企業が担っています。

そして、豊富な森林資源を有するこの地域では、開拓期以来、林業が主要産業として発展してきました。北米最大の林業会社、ウェアハウザー社もシアトルに本社を置いています。かつては日本向けに多くの丸太が輸出されるなど、日本とも深いかわりがありました。

米国北西部沿岸地域 における森林事情

シアトルのある北西部沿岸地域は、南部とともに、米国を代表する林業地域の一つです。ダグラスファー（ベイマツ）を始めとする豊富な針葉樹資源を有するとともに、東部に比べてヨーロッパ系移民の大規



マイクロソフト本社での日本文化発信



鈴木イチロー氏背番号「51」がセンターに書かれた芝生



ノースカスケード国立公園

模入植が遅かったことにより、手つかずの自然も多く残されています。また、シアトルの位置するワシントン州内には、ノース・カスケード国立公園、マウント・レーニア国立公園、オリンピック国立公園の3か所の国立公園があり、ハイカーにとって人気の州になっています。

一方、豊富な森林資源にもかかわらず近年は、国内の住宅ローン金利の高止まり・インフレによる住宅価格の高騰などに伴い、木材市場は奮わない状況が続いています。また、環境面では、森林火災の深刻化・激甚化が増しており、延焼の燃料となる過剰なバイオマスを減らす観点でも、積極的な森林管理を求める声が高まっています。

また、二酸化炭素の吸収源としての森林の役割に注目が高まっております。カーボンクレジットの観点で森林に対する投資を

行う企業が増えており、特に、データセンタールの需要拡大による二酸化炭素排出量の増加への対策として、ビッグ・テックによる森林投資が増えつつあります。



森林投資会議への参加

おわりに

シアトル総領事館では経済・文化・姉妹都市担当の領事として、幅広い分野に携わっています。シアトルには250の日本企業の事業所が所在しており、経済担当として、林業・木材産業のみならず、水産業や商社、流通業界など幅広い分野の方と意見交換を行っています。このほかにも州政府、大学、林業団体等との関係構築・情報収集にも動んでいます。また、文化担当として、「日本文化祭り」の企画や、現地

美術館・生け花や茶道等の日本文化に関連する団体との連携強化も行っています。加えて、姉妹都市担当として、当館管轄地域であるワシントン州、モンタナ州内の各地域と日本の各市町村等との間で結ばれている約40の姉妹都市連携に関し、周年事業への参加や、ネットワーキング等も行っています。

このように、多くのコミュニティ、地域と接する機会がありますが、様々な分野でシアトルが日本との深い繋がりがあることに日々驚いています。例えば、シアトルから車で3時間東に行ったモーゼスレイクという町では、日本からの農業研修生を毎年受け入れており、研修生は全米各地の農場に配属される前に、この町のコミュニティ・カレッジで語学や農業の基礎を学んでいます。その他にも、先述の姉妹都市に関する活動においては、学生交流をはじめとした草の根交流や、JET (Japan Exchange and Teaching) プログラムにおける日本の小中高등학교への外国語指導助手 (ALT: Assistant Language Teacher) 等の派遣など、多くの取組を通じて、多種多様な方が日米相互を訪問し、訪問側、受入れ側ともに文化に触れる機会があります。外交というと華やかな舞台をイメージされることもありますが、日米の強力なパートナーシップを支えているのは、こうした皆様の一人一人のつながりに基づくものだと、改めて実感しています。



研修生受入れ農場



姉妹都市記念式典での挨拶